

2014年 知教労と東海市教委との話し合いまとめ

10月21日(火)(加藤教育長・奥村主任指導主事・佐田委員長・岩澤副委員長・草・宮澤)

1 勤務時間の適正化の問題

(組合) ここ5・6年、勤務時間の記録や労働体制の整備について、進みつつあるが、東海市はその後の進捗状況はどうか。東海市の情報公開によれば超過労働は残っている。抜本的な対策を打っているのか、伺いたい。

(教委) 基本的には毎月調査をしている。80時間越え100時間越えを把握し、産業医の面接希望も聞いている。校長会では健康面だけでなく、在校時間が少なくなるように話している。長時間勤務の当該教員に今年度は直接面接もしている。しかし、中学校ではジュニアの試合、半田祭等があり、役員として準備や運営に従事しているのでそこで時間を費やしている。また、交通の便利がよいA中のように練習試合を呼びかけて2校3校で行い、それだけで1日になることもある、というような現状を校長から聞いている。

「家庭の日」もこちらから言っていかなければいけない。部活を一生懸命やる反面そういう課題が出てきている。次の校長会には話をしようつもりだ。

(組合) だいたいどの市町も労安体制ができて産業医も決めてあるが、産業医の面接が0件だ。

(教委) 東海市で昨年に続き今年も、1人本人の申し出で産業医の面接を受けている。

(組合) 東海市はその制度が周知されている結果だ。

(組合) 行政の対応も以前とは違ってきている。4月は労働時間が多くなりがちだが4月に100時間越えの教員は東海市で小中併せて102人いる。中学校が多いのはどこもそうだ。そういう状況を何とかしなければならぬ。豊明市では、今年から冬期の朝部を中止すると決まった。

このように部活については具体的な対処が必要ではないのか。

(教委) 活発な反面、やり過ぎなので週1回の休みや、朝部の件は市教委からも呼びかけをしたい。特に知多全体に呼びかけたい。また、以前は知多の校長会で申し合わせ、「家庭の日」の休みも実行できた。5市5町でやる必要がある。

(組合) 校長も教員がやればよいと思っているわけではないが、部活動を減らすと一般に子どもやPTAから苦情が来る。豊明では市・PTA・組合で話し合っ、決まったことだ。

(教委) 過熱気味だと重々承知している。運動部活を奨励してきたが学校にいる超過分が100時間を超えるというのはすべて勤務かは別問題としても、資料を見せられてこれは酷いと感じた。

(組合) B小でも午後10時過ぎで残るときは管理職の許可を得るといった話があったが、現実には10時過ぎに残っている。

(教委) 8月25日の文書で管理職に伝えている。

(組合) C小では9月2日に教頭から厳しく指導があり、10時過ぎに残らないように話があった。

(教委) 例えばこんな例がある。教員がバレーならバレーの協会の方と親しく、大会の役員として大会に参加している。そして、かなり長い時間従事している。そういった個々の事例をつかんで、具体的に改善策を考えていきたい。それをしないと、「ノー残業デー」を作ってもこの制度が曖昧になる。小学校は集計すると、年間平均すると労働時間が80時間を超える人は5%を切る。時期にもよる。みんなで協力すれば、80時間を超える人はなくなるのではないか。忙しい時期に、校内で上手に仕事を分けていけたらいいのではないか。

(組合) 中学校ではそうはいかない。5%といっても、B小は土日に来ている職員が多い。土日来たけれど「いいや」といって、勤務時間を記載しない。

(組合) 土日来ていても相変わらず、土・日の勤務を記載していない中学校があるのではないか。D中は土日の部活動が記載されていない。E中は今年から記載されるようになった。ぜひ、土日も記載するように指導をお願いしたい。

(教委) 当然指導したい。

(組合) 教員も土日の労働が多いと指導が入るといふ空気はつかんでいるようだ。自己規制が働いている。教員はそういう教育は受けていないし、労安体制が機能していないので、これはなぜなんだ、ということが分かっている教員は少ない。校長教頭も管理者としての本来の法律を元にやっているのかという、極めてそういう運営は少ない。

(組合) 知多市は現職の教員の死亡が相次いだ。労働時間と死亡の関係はどうかという点は難しかったが、大きな事件だと捉えられ、法的な裏付けを元に教頭への研修会を行った。労安体制全体で校長、教頭が推進、管理者である。「何で、記録しないのだ」と怒るのではなく管理者の責任だという点から勧めていくと意味が伝わるのではないか。

(教委) 自分たちの問題とする空気が少ない。

(組合) 管理者として、管理する立場なのだから、書かなかつたのは「各個人の先生が怠けて書かない」とか、「面倒だから書かない」とか、そういうことではなく、「何時間、学校にいるのか把握はしなければならぬ」。やっていなかったら、「やりなさい」と指導する立場だ。管理者が現認するというのが普通だが、現実に現認は出来ないから、「自分たちでやってくださいね」ということだ。本人のせいではない。管

理者の教育が必要かなと思うので、是非、管理職に言っていただきたい。

2 部活動について

(組合) 部活動が超過労働の大きな原因だと思うが、その辺の認識は一致しているか。部活動にメスを入れないと、超過労働はなくなる。いろんなところで少しずつ改善していると思うが、学校教育と部活動を完全に切り離すということを40年前から言われているが、将来的にも掲げておかないといけないうだろう。それでも、変わって来なかったということで、大胆にメスを入れなければならない。不動の部活動ではなく、ちょっとずつ出来ることから改善していかなくてはいけない。今、東海市では全員加入制か。

(教委) 全員加入ではないか。お稽古事も届け出さえすれば、部活動としている。把握している限り、強制参加にはしていない。部活動は中学校で教育的な意味もあって、やる意味もある。先生たちががんばってくれている。

(組合) 先生たちも全員顧問制か。

(教委) 全部調べた訳ではないが、年度当初に校長からお願いされて部活動の顧問をしていると思う。ただし、それぞれ育児、介護、本人の健康問題等事情もあるので、無理がないように部活動の顧問をお願いするのが一般的だと思う。

(組合) 生徒は学校外でクラブチームに入っている。それも、1つの活動として認めている。A中もそうだった。全員部活動に入っているが、部活動については文科省も「自主的自発的な活動であり決して強制してはいけない」といっている。「全員加入しなさいという指導をしない」ということで部活という概念を崩せるのではないか。

(教委) 部活動を希望制にして欲しいというのが、主旨か。

(組合) 先生もほとんど、月から金まで土日はもちろん、部活の活動時間は勤務時間の外に入る。

(教委) 今は少し早く帰れるが、夏場など午後7時を超えている。

(組合) それなので、部活動の顧問をやりなさいという指導はいけないと思う。

(教委) むろん、強制はできない。

(組合) ただ、無理しなくてもいいと言われても、みんながやっていると自分だけ断りにくい、という状況だ。先生の方もやめる自由があってもいいのではないか。希望を取って、ちょっと遠慮したいという人はしなくてよい。そういう希望制にしてはどうか。文科省の方も、将来社会体育にするという観点から、生徒は希望制になっているが。

(教委) お稽古も部活動と認めているし、強制参加ではない。

(組合) 先生も全員顧問になっているのか。

(教委) ほぼ、そうだと思うが、個人の事情は配慮

されている。

(組合) クラブチームは認められているのだから希望制にしてはどうか。やめる自由もつくっては。

(教委) 名古屋は先生が部活が出来ない状況がある。

(教委) 東海市は教員の年齢が若い名古屋は教員の高齢化で部活の指導者が足りない。外部指導者をということだ。有償で特別非常勤みたいな形で市が予算を出し、外部講師による学校派遣事業を行っている。東海市は現在、外部指導者をお願いしているが、無償である。すぐには有償に出来ない。将来は社会体育に移行すべきだと思う。学校部活は重要だが、勤務時間を超えてということでは、社会体育に移行していかないと、現状が改善されない。外部講師の派遣は人件費が高く、市教委だけでできる事業ではない。少しずつでもそういう方向へということで派遣事業を考えていかなければと思っている。税金で人件費をまかなおうと思えばとても高額になる。1つの学校で1人お願いするとして、何百万もかかる。18校あって(中学校6校)そのうちという思いがあるから、何年か先までには先生たちの負担を少しでも減らしたい。また、スポーツ力の向上という点から指導者が替わると一貫性がない。そういう点からも一貫性をもった専門の力量を持つ指導者による継続指導が必要である。子どもたちの力を伸ばすため、専門的な知識のある人が中学校の部活の意義を理解して、指導して欲しい。日本の学校部活動は先生の善意に依存しているので、当面先生方が無理のないようにという点を徹底していきたい。

(組合) 教員の善意に依存した体制は教育委員会にも責任はあるのだから、労働時間を管理するという視点で当面どうしていったらよいか。

(教委) 議会に要望はするがすぐに予算化されるわけではない。

(組合) 予算作成を打ち出すことは。

(教委) 今年度は間に合わないので来年に向けて準備する。予算の話は出来るので、検討していきたい。たとえば、スポーツ教室のハンドボールは一貫性のある体制が出来つつある。ハンドボール以外にも他の種目でも2つぐらいの団体を考えてはいるが、派遣事業をしようにも意外と人材がない。

(組合) 有償化すれば希望者が集まるのでは。社会教育の大切さは、分かっている。スポーツ指導も研修が大事だ。外部指導者派遣事業と学校は対立しないのでは。

(教委) 部活の強制参加はしないが体験はさせたい。

3 大会・ドッジボール大会

小学校の部活動の大会が大規模過ぎるので、大会の規模を縮小したり、大会の回数を減らすこと、ドッジボール大会の廃止を要望して、予定時間が終了した。